

医療・環境保全・農村開発

医療支援 一人でも多くの命を救うために

待たなしの診療車購入のニース — 助産所責任者ナブサさんの報告と支援要請 —

14年前の2007年、故今泉誠子さんを中心に会員のご協力で中古車を支援、修理を重ねながら巡回診療や患者搬送で使用してきた診療車両が、いよいよ緊急の場面でその役目を果たせなくなりそうです。以下、3月入手のナブサさんの報告と要請です。

.....

アラベル、マラパタン他隣接の数市町村を含む広範囲からの緊急搬送要請においては現車両は危険が多すぎる状況となりました。

保健省の規定では、助産所の車は、車内でも出産介助ができる最小限の機材を積み、助産師が同乗することとなっていて、何とか対応していますが、一番困っていることは、搬送中しばしば起こるエンジントラブルで、道の真ん中で止まるケースです。そんな時は通がかかったジブニーやバスなど公共交通機関に妊婦を移乗させたり、緊急時はやむを得ず他の病院の救急車を要請しますが、高額の使用料支払いが発生します。

頻発する故障に対して、車が古すぎて部品がなく修理不能も多く、エアコンも5年前から使用不可で妊娠中毒症の患者搬送時は大変でした。窓全開でも熱風が入るだけの車内で体調が急変、何とか無事出産できましたが、妊婦搬送は毎回ヒヤヒヤしています。

さらに、安い給与でも患者搬送や度重なる車修理のため奮闘してくれた運転手のアラジンさんからは、これ以上患者搬送に責任をもてない、辞めたいといわれました。

開設4年目の助産所最大のピンチへのご助力よろしくお願ひいたします。

助産所の診療車購入へのご協力をお願いいたします！

購入予定の中古車代35万ペソ(約77万円)について、月例会で調達方法を検討したところ、参加者から計60万円のご協力申し出をいただきました。残る17万円について、皆様にもご助力、ご協力をお願いさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

一歩近づいた自力運営ゴール



妊産婦から頼りにされている医療スタッフたち:左から、有資格助産師ナブサさんとサラリンさん。コロナで国家試験はお預けですが、臨床経験は十分のモナリサさん

昨年度の助産所収入の概要が届きました。医療保険からの収入約50万ペソは、医療スタッフ3名(写真)と事務スタッフ計4名の人件費をほぼ賄える金額で、近い将来の自主運営に向けて明るい材料となりました。これは会員のご支援と、各種助成金による保険加入推進研修の成果であり、改めて皆様のご協力に感謝し、また、“妊婦検診・出産は助産所で!”の広報・研修活動継続の重要性を確認できました。

環境保全および持続可能な収入向上のためのアグロフォレストリー報告より

7年前のアグロフォレストリー事業の実り — ゴムの苗木が収穫時期を迎えました —

「NPO法人WE21 ジャパンみどり」の支援で実施した事業はBOSDAと略称した元奨学生3人が組織したグループで実施しました。組織自体は担当者の未熟な事業管理で解散となりましたが、苗木管理は、3名のうちの農業専門家ボニファシオによって新たに組織されたTBAにより継続されています。

ボルルールでのゴム樹液ラテックス採取・販売は初めてで、年度内早い時期の研修を予定しています。



伝統技術を生かした女性の収入向上事業

ティヌオスハンディクラフト組合/TWH 発足！

— 竹、籐、ビーズ細工を収入向上につなげます —



貿易産業省の組合登録証。組織化により、4月のモールからの竹細工追加注文はTWHあてに届きました。

母親たちから各種ハンディクラフトを買い取り、コロナダルの市の大学売店やモールに販売を委託。買取価格との差額収入は先住民学校運営に充てます。

アニータ先生一人の頑張りすぎが気になっていたところ、COWHED元マネージャー・ジェマさんの助言もあり、母親たちの組織化に成功したという報告が届きました。

ボルルール村アクブの収入向上事業/ニト細工支援

— 事業担当TBAボニファシオ報告より —

森に自生する蔓性植物を素材とするニト細工継承と、収入向上を目指すボルルール村アクブの女性組合から、以下のような売上げ報告と私たちの材料費支援(2万ペソ)への感謝のメッセージが届きました。

フルーツ皿300枚、バッグ2点、フードカバー10点、三段籠2点他を含む売上合計は16,500ペソでした。

売り上げ収入の一部を材料のニト収集者の支払いに充てることで、今年度も継続して、伝統を生かした現金収入増加活動に取り組む予定です。

